

2019年 FIE 国際審判試験報告書

1, 渡航先及び期間

タイ王国バンコク市 2019年10月19日～10月25日

2, 受験者

長良将司、簾内長仁

3, 受験者数及び合格者数

サーブル 20名 ⇒ 3名

フルーレ 19名 ⇒ 6名

エペ 24名 ⇒ 7名

4, FIE 試験官 (6名)

- ・ Alvarez gil de Tejada (ESP)
- ・ Kim chang gon(KOR)
- ・ Cojocari Olga(MDA)
- ・ Knysch Irina(RSA)
- ・ Dakova Ianka(USA)
- ・ Evgeny Tsoukhlo(RUS)※DT 委員

5, 試験形式 ※3 種目共同じ試験形式である

①筆記試験

- ・ 受験者一人ひとり英語での自己紹介
- ・ 15 問出題 (共通 10 問、種目 5 問)
- ・ 13 問以上正解でビデオ試験を受けられる。

②ビデオ試験

- ・ 10 問正解で実地試験に進む。但し 10 問正解する間に 3 問間違えると不合格。

③実地試験

- ・ 地元選手達が審判試験用に試合を行い、受験者がプール戦又は 15 本勝負を裁く。

6, 日程

10月20日 サーブル筆記試験・サーブルビデオ試験

10月21日 サーブル実地試験・フルーレ筆記試験・フルーレビデオ試験

10月22日 フルーレ実地試験

10月23日 エペ筆記試験・エペビデオ試験

10月24日 エペ実地試験

7, 試験詳細

1) 筆記試験内容

15問出題され、13問以上正解でビデオ試験を受けられる。

内容は共通10問、各種目5問の計15問、3択形式となり、回答時間は30分。
試験問題は、コンピューターでランダムに受験者それぞれに振り分けられ、問題用紙は受験者各々違うものとなる。

試験内容はすべて英語のため、英語読解力とシチュエーションをイメージする力が求められる。

2) ビデオ試験

筆記試験をパスした受験者が、1人ずつ部屋に入りプロジェクタ画面でのW杯等のプレーを試験官の前でジャッジをする。

10問正解でパスできるが、10問正解する間に3問不正解すると終了となる。

スローやリアルスピードでの見直し要求は5回までとなる。

1フレーズが流れた後、素早く意思決定しジャッジする必要があり、質問やディスカッション等は一切行われなかった。

可否については、全員のビデオ個別試験が終了してからの発表となった。

<サーブル>受験者・長良

フレーズ重視の問題が多く、トータル13問出題された。

3問間違えたのか10問正解したのか分からないまま13問返いき、かなり不安を抱きながらのジャッジだったが、何とか落ち着きを取り戻す事ができた。

特に、アタック・ノン又はプリミエール等のフレーズにおいては、ビデオでの見極めが難しい為スローを要求しジャッジを行った。

問題と問題の間の時間が殆ど空かないため、ひとつ前の問題を引きずることや、難しいジャッジを求められて次の問題に影響が出てしまうと、冷静に判断ができないため平常心が求められる。

国内試合においてのタフなジャッジ経験が必要であると感じた。

<フルーレ>受験者・長良

何問出題されたはカウントできなかったが、出題された半分はペナルティを与えるか否かというシチュエーションであった。

出題されたペナルティのシチュエーションは下記である。

・転倒しながらのトゥシュ

・トゥシュ回避のゴール・ア・ゴール

- ・トウシュ回避のためピストの横の境界線を出る
- ・コル・ア・コルの際のブスキュラード
- ・有効面のカバーリング（ヘッドダウン）

上記のペナルティを与えて、さらに相手のトウシュを有効とするかどうかという判断も入ってくるため、ルールブックの熟読と経験が必要とされる。

3) 実地試験

筆記試験及ビデオ試験をパスした受験者のみ受けられる。

筆記・ビデオ試験会場の隣に2ピスト設置してあり、地元選手たちが試験用に試合を行う。

<サーブル>受験者・長良

受験者5名が参加し、3名が合格。

用具確認から始まり、15本勝負をジャッジする。

試験官がペナルティのシチュエーションを選手たちに要求し、見逃すと減点評価となった。

不合格になった受験者は、ミスが2点あると感じた。

1点目は、パス・アヴァンの見逃しとガードでのトウシュの見逃し。

2点目は、4mの立ち合いの際のアタック・コントロールアタック及びシュル・ラ・ブレパレーションの見極め。

特にパス・アヴァンの見逃しは、フレーズに囚われすぎて全体が見えなければ見逃す可能性があるため、試合の全体を見渡せる位置に立つことが大事である。

<フルーレ>受験者・長良

受験者6名が参加し、6名全員が合格。

用具確認から始まり、プール戦をジャッジしスコアシートに記入。

選手が9名おり、4名プールと5名プールに分かれ各プールに受験者3名が配置されジャッジする。

サーブル同様、ペナルティのシチュエーションを試験官から要求され見逃すと注意される。

そして、ペナルティを与えた際必ずスコアシートに記入しなさいと厳しく注意された。もし、選手たちがペナルティの有無に同意しなかった場合に説明することができるためである。

ペナルティのシチュエーションは、ピストに上がる際の髪の毛がジャケットに掛かっているケースや、ダッキングの際に剣を持っていない手をピストに置くなどフェイクな場面もあった。

プール戦が終了した後に、2名（マカオ・イラン）の受験者を試験官が個別に呼び出し、再試験のような形で追加の審判をしていた。



サーブル実地受験者と F I E 試験官



フルーレ合格者と F I E 試験官